

有識者・研究者ヒアリングについて（案）

1 目的

検証項目 3 (1) B型肝炎の病態等に関する医学的知見及びそれに対する関係機関等の認識、(2) B型肝炎の感染経路等に関する医学的知見及びそれに対する関係機関等の認識、(3) 集団予防接種等による B型肝炎ウイルス感染リスクに対する関係機関等の認識、検証項目 4 (1) 関係学会、医療関係者による把握及び対応について把握するため、肝炎研究に関する有識者を対象とし、当時の認識及び背景等についての情報を把握する。

2 方法

- 半構造化面接法による聞き取り調査。
- ご希望があれば研究班員に同行いただくことも想定。

3 調査項目（案）

＜以下の 1 から 3 までの各項目について、①研究等を通じての対象者ご本人の認識、②学会等での一般的な認識をそれぞれ確認する＞

1. B型肝炎に関する医学的知見に関する変遷

- ✓ 重症化に関する認識の変遷（劇症化すること、慢性化すること、その上肝がん・肝硬変に進行することについての認識を、それぞれいつ頃から持っていたか。またそのきっかけは何か。）
- ✓ キャリア化に関する認識の変遷（無症候性キャリアという概念がいつ頃認識されたか。またそのきっかけは何か。）
- ✓ 感染力の強さに関する認識の変遷（少量のウイルスでも感染することがいつ頃から認識されたか。またそのきっかけは何か。）

2. B型肝炎に関するリスク認識に関する変遷

- ✓ 感染経路に関する認識の変遷（主な感染経路としてどういうものがあつたか。それがどのように変わったか。またそのきっかけは何か。感染力の強さに関する認識との関係はどうだったか。）
- ✓ 注射針・注射筒による感染リスクの認識の変遷（注射針、注射筒による感染リスクの認識はいつ頃からあつたか。それはどのように変わったか。またそのきっかけは何か。）
- ✓ 集団予防接種（注射針・筒の連続使用）による感染リスクの認識の変遷（集団予防接種の際の感染リスクの認識はいつ頃からあつたか。それはどのように変わったか。またそのきっかけは何か。）
- ✓ B型肝炎ウイルス感染防止対策に関する認識の変遷（感染経路、感染リスクの認識の変遷を踏まえ、有効とされる B型肝炎感染防止対策はどのように変わったか。具体的な対応等の議論はどのようにされていたか。具体的な対応はあつたか。）

3. 関係学会、医療関係者による把握及び対応

- ✓ 集団予防接種によるB型肝炎感染の症例報告の有無
- ✓ (症例報告があった場合) 症例の概要及び関係学会等の対応(学会会員への通知、ガイドラインの作成等の対応があったか。)

以上